

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 1 月 11 日 (2007.1.11)

【公表番号】特表 2006-507825 (P2006-507825A)

【公表日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【年通号数】公開・登録公報 2006-010

【出願番号】特願 2004-555192 (P2004-555192)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 11 月 15 日 (2006.11.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

生物学的溶液から完全にチオエート化された一重鎖アンチセンスオリゴヌクレオチドを単離する方法であって、生物学的溶液を固定化金属イオン吸着クロマトグラフィ (IMAC) 樹脂に接触させてアンチセンスオリゴヌクレオチドを樹脂に吸着させ、その後、樹脂からのアンチセンスオリゴヌクレオチドの脱着が起こる条件下で樹脂を溶出液に接触させ、溶液中の不正確にチオエート化されたアンチセンスオリゴヌクレオチドから完全チオエート化アンチセンスオリゴヌクレオチドを分離する、方法。

【請求項 2】

前記生物学的溶液がアンチセンスオリゴヌクレオチド合成で得られたものである、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

不正確に合成されたオリゴヌクレオチドから完全チオエート化アンチセンスオリゴヌクレオチドを分離する、請求項 1 又は請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

1 ~ 5 個 (例えば 1 ~ 2 個) の未チオエート化結合を有する不正確にチオエート化されたアンチセンスオリゴヌクレオチドから完全チオエート化アンチセンスオリゴヌクレオチドを分離する、請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 5】

前記金属イオンが Zr^{2+} 又は Fe^{3+} である、請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 6】

前記アンチセンスオリゴヌクレオチドが、5 ~ 30 塩基対、好ましくは 15 ~ 25 塩基対の大きさである、請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 7】

アンチセンスオリゴヌクレオチドの吸着時に生物学的溶液の pH が約 7 以下である、請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 8】

単離したアンチセンスオリゴヌクレオチドをさらに精製する追加段階を含む、請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 9】

生物学的溶液中の不正確にチオエート化されたアンチセンスオリゴヌクレオチドから完全チオエート化一重鎖アンチセンスオリゴヌクレオチドを単離するための固定化金属イオン吸着クロマトグラフィ（IMAC）樹脂の使用。